



自然と触れ合うカヤック体験



熊谷 可菜さん

十八成浜の熊谷可菜さんは、神奈川県出身ですが大学職員時代に災害ボランティアとして各地域で活動し、平成25年に石巻のボラ

ンティアスタッフから声掛けがあり、大街道を拠点に漁業支援として萩浜や北上町十三浜などで活動を開始しました。その際、萩浜で活動している中で牡鹿地区に興味を持ち住みたいと感じていた頃の平成27年に、牡鹿地区復興応援隊の紹介があり牡鹿半島に完全移住することとなりました。



夢を叶える

なかのカヤック

みんなのな場

は、金華山の観光推進からはじまりインフォ牡鹿などの地域情報支援、ビジターセンター開設準備などの活動を行った。活動して良かったことは、取材で各浜を回り地域行事や学校行事などを通じ一緒に作業し仲良くなることで、改めて地域の魅力を知ることができた仕事につながったことだそうです。

災害ボランティアや復興応援隊での活動を経て、自然と触れ合うことができ、楽しいを通して自然をどうするか考えるきっかけができるべきだと想い、夢だったカヤックガイドとして、令和元年に「なかのカヤック」を開業し夢を叶えました。なかのカヤックのプログラムは、4月～11月までの比較的に温かい時期に、初心者向けの「半日または1日のカヤック体験」、経験者向けの「おしゃカヤックツアーア」を実施しており、海の上だからこそ楽しめる景色、匂い、音などの自然を満喫することができます。

今後は、仙台圏や関東圏など牡鹿半島の素晴らしい場所があり、楽しい場所が多いので、こじらることをアピールして行きたい。また、自分自身のレベルを上げ障害のある方など色々な人に体験してもらいたいそうです。

問 □info@nkn-kayak.com



詳しくはこちちら

さうり★まさっこ 15

アイデア貯金箱が高評価

なかざと かずま
中里 寿楨さん (稻井小6年生)

工作が好きで、小学1年生の頃から毎年、「ゆうちょアイデア貯金箱コンクール」に応募しています。5年生の時に初めて「デザイン・アイデア賞」をもらうことができました。

最初は簡単な仕組みしか作れませんでしたが、学年が上がるごとに、より複雑なデザインで動きも多彩な貯金箱が作れるようになりました。初入賞を友達や家族も喜んでくれて、本当にうれしいです。

受賞した貯金箱は、松島合宿での楽しい思い出を形にしました。キャンプファイヤーをモチーフにしており、電気配線を仕込んだ中にお金を入れると豆電球が光る仕組みです。今見ると、接着剤の使い方や人形の作り込みに改善の余地がありますね。今年はもっと完成度を高めた貯金箱を作り、文部科学大臣賞を目指したいです。



市報いしのまき 第322号 令和7年6月1日発行

発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX 23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ざつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市的人口と世帯数(前年比)

令和7年4月末現在	人口 131,396人 (▲2,180) 世帯数 62,623世帯 (81)
-----------	---